# 白山登山者数の変遷及び登山者の質的変化

四手井　英　一・中　村　真一郎　石川県白山自然保護センター

# CHANGES OF NUMBER AND QUALITY FOR THE MOUNTAIN CLIMBING PERSON

SHIDEI Eiichi and Shin-ichirou NAKAMURA,　*Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

## はじめに

昭和37年白山が国立公園に指定されてから37年を経過し，登山施設の整備も進み登山者数(宿泊者数)も年間3万人を越えたときもあった。しかし一方で交通機関や交通網の発達，登山者の質の変化などにより，登山形態も大きく変わってきている。例えば自家用車増加による日帰り登山の増加，旅行会社による登山ツアーの増加等々が言われている。

そのため本報告では登山者数の経年変化及び日帰り登山率を調査し，実際に日帰り登山が増えているのかを検証し，更に指摘されている各種諸問題を考察してみた。

## 調査方法

宿泊者数は，白山室堂，南竜ヶ馬場の宿泊者数を使用した。また日帰り登山率及び宿泊率の調査には市ノ瀬及び別当出合に備えつけられた平成7年から11年までの登山者名簿を利用した。登山者名簿に記された内容から，明らかに日帰りと判るもの，宿泊と判るものを抽出して有効総数とし率を算出した。また平成7年から11年までの推定登山者数は実宿泊者数を宿泊率で除して算出した。更に日帰り率については平成8年，9年のアンケート調査結果である石川県白山自然保護センター(1997)，鳥畠(1998)の数値をも参考にした。

## 調査結果

白山宿泊者数の経年変化は図1に示すとおりで，昭和42年からのデータを表示した。昭和42年から59年にかけては全体として増加傾向を示し，特に昭和59年の全宿泊者数は37,000人を越えている。しかしこれを境に漸減傾向となり，特に平成10年，11年の落ち込みが大きい。これは天候がかなり不順であったことと，室堂ビジターセンターが平成11年から改築に入り，そのため食事の提供ができなくなったことから室堂の利用者数が激減したのがその原因と思われる。これは南竜ヶ馬場の平成11年の利用者数が大きく伸びていることからも判る。天候だけならば南竜ヶ馬場も減少しなければならないが大きく伸びていることは，本来なら室堂を利用する登山者の一部が南竜ヶ馬場へ流れた結果と見ることができる。

その他，登山者数の減少の原因として考えられるのは戸外活動の範囲と対象が拡大し，里山の散策から家族や会社，仲間同士でのキャンプ，海，川での余暇の増加，海外の山での登山や散策の増加などが考えられる。更に戸外活動以外の余暇を過ごす要素が多くなったことも上げられるであろう。

登山者名簿より算出した日帰り登山人数，率は表1,図2に示すとおりで平成11年度で約32%に達している。ただしこの数字は登山者名簿から抽出したものであり，記入者が偏っている可能性があり（初心者や白山登山歴の長い人，団体登山者などは記入しない傾向がある）登山者全員の動向を表しているとは言いがたい。あくまで登山者の傾向をつかむための一手段と考えてみた。しかしアンケート調査でも日帰り率は平成8年の11.3%平成9年の21.9%とと今回の登山者名簿による調査結果と傾向としては大きな違いはない。やはり日帰り登山は増加していると見るべきであろう。

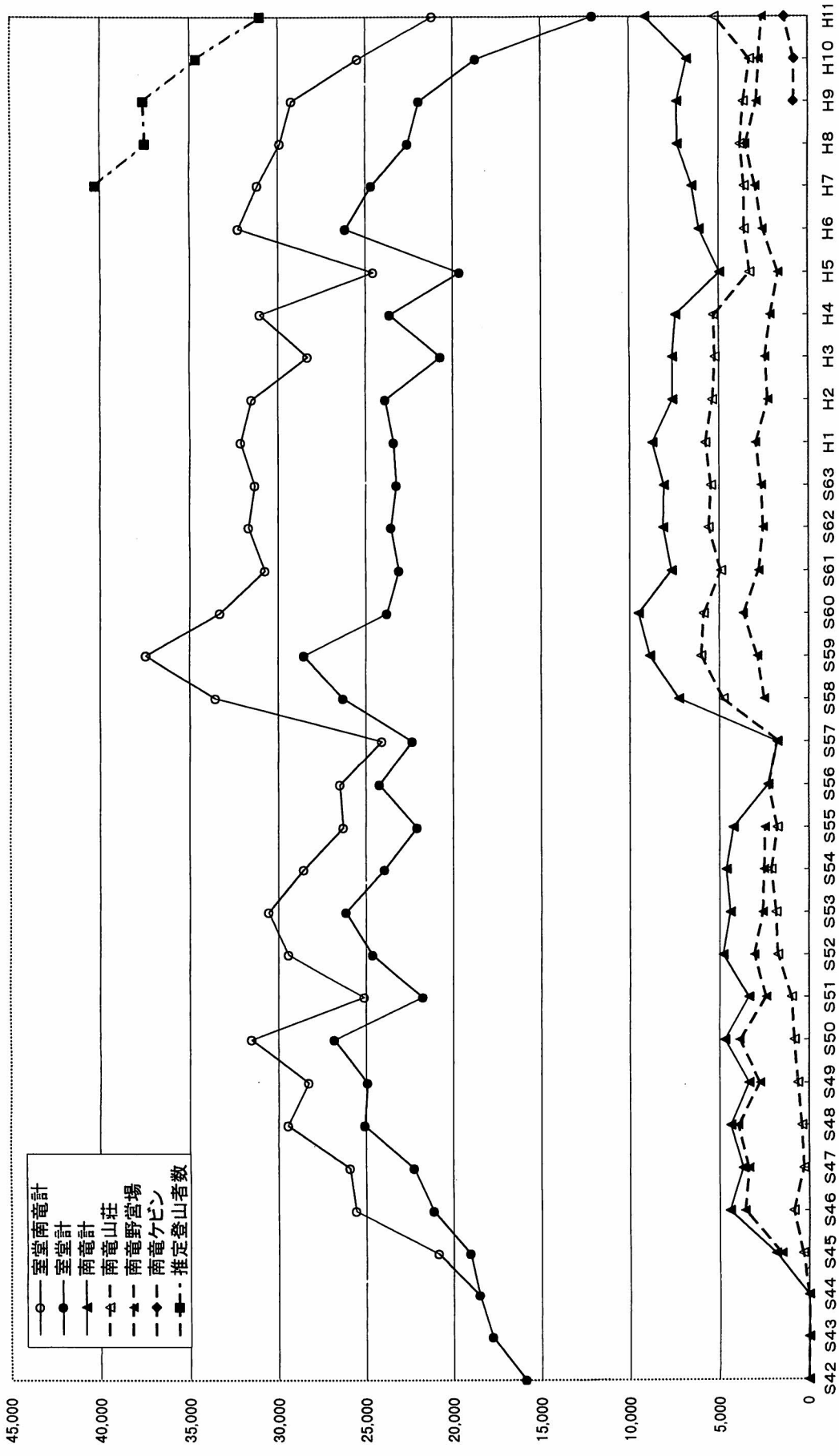


図１　白山宿泊者数経年変化

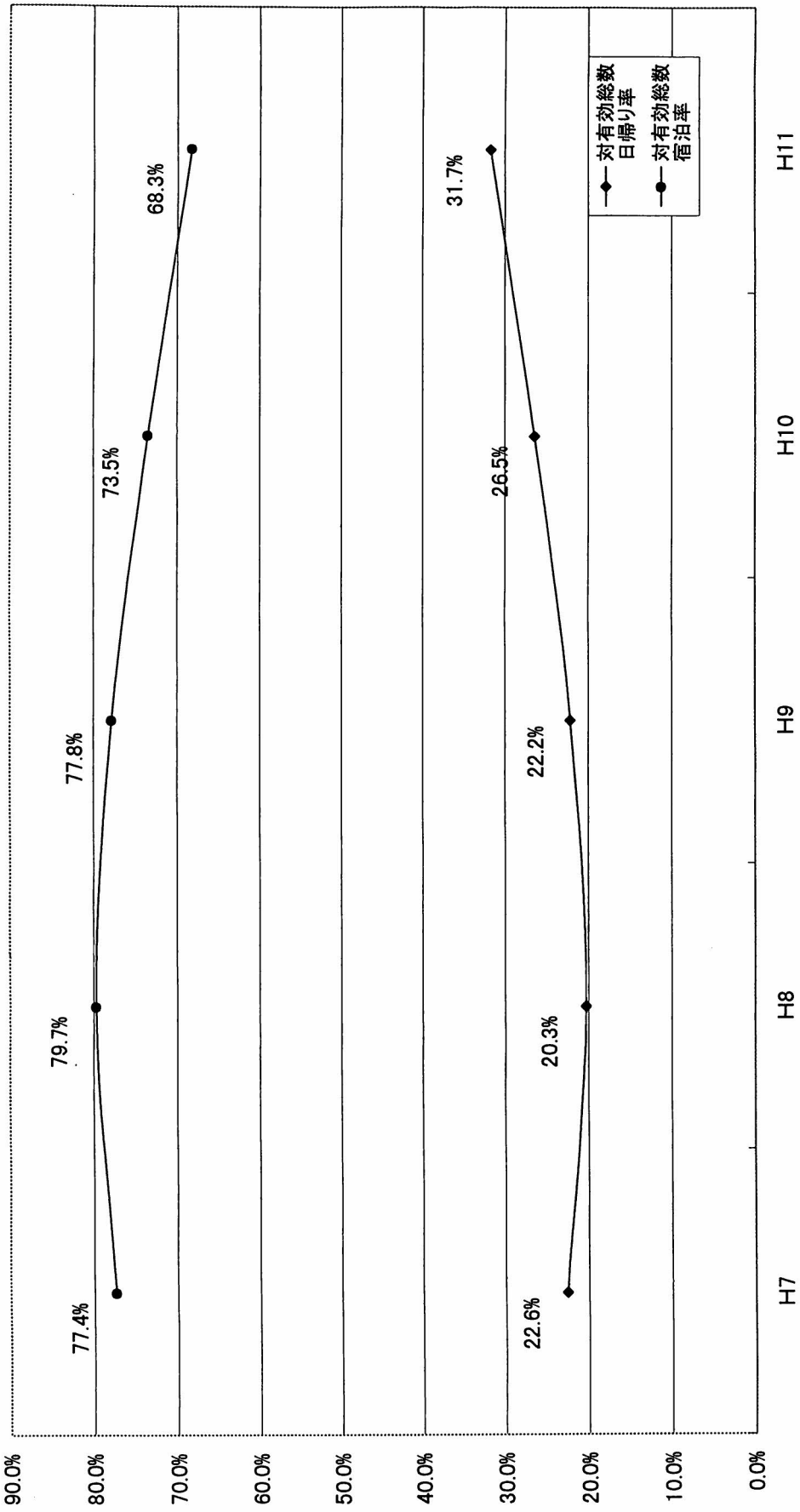


図2　白山登山日帰り率経年変化

表　登山者名簿による白山登山日帰り率（平成７～11年）

| 年 | 調査総数 | 有効総数 | 有効総数率 | 日帰り人数 | 対有効総数日帰り率 | 宿泊人数 | 対有効総数宿泊率 | 不明 | 対調査総数不明率 | 宿泊者数実数 | 推定総登山者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H7 | 6,964 | 6,073 | 87.2% | 1,373 | 22.6% | 4,700 | 1 | 891 | 12.8% | 31,156 | 40,258 |
| H8 | 11,676 | 9,738 | 83.4% | 1,976 | 20.3% | 7,762 | 1 | 1,938 | 16.6% | 29,880 | 37,487 |
| H9 | 13,445 | 11,530 | 85.8% | 2,558 | 22.2% | 8,972 | 1 | 1,915 | 14.2% | 29,243 | 37,580 |
| H10 | 11,695 | 9,684 | 82.8% | 2,566 | 26.5% | 7,118 | 1 | 2,011 | 17.2% | 25,461 | 34,640 |
| H11 | 10,236 | 8,880 | 86.8% | 2,818 | 31.7% | 6,062 | 1 | 1,356 | 13.2% | 21,177 | 31,021 |

この増加の原因は先に述べた以外に装備の進化，軽量化による行動範囲の拡大。登山というものを単なるスポーツ（国体の登山競技のように自然に親しむための登山ではなく，単なる競技として時間と技術を競う。遠方から自家用車を利用して，休暇の間に如何に多くの山へ登るかを競う）と解する見方が増えてきたことなども一因と思われる。

## 考　察

自家用車の普及や主な登山道の整備等により，かつて不便だった白山登山も日帰りができるようになり，また各山小屋の各種設備が充実し，食事も下界とそれほど変わらないものが提供できるようになった。最近では旅行会社による団体登山ツアーや「中高齢者の登山のすすめ」による生涯スポーツとしての登山なども増加し，ここ数年は例外として，登山者数増加傾向につながっている。

それにつれて各種のトラブルも多く発生している。現在土曜日曜に行われているマイカー規制のため，帰りのバスに間に合うようあせった登山者が道に迷い遭難した例や，犬を連れて登山し他の登山者に迷惑をかけている例，また旅行会社による登山ツアーに参加した人が病気になる例，中高年者の過信による遭難例，マウンティンバイクやトライアルモーターバイクを乗り込み顰蹙をかう例など数えればきりがない。

今の登山は昔の登山とすっかり形態が変わってきている。地図も磁石も持たない。食料も持たない。スニーカーにジーパン，折り畳み傘とラジカセ，ペットボトル飲料だけを持っての登山者も珍しくはない。中高年の登山にしても，若い時から登山をしてきて中高年になっても継続している人と，中高年になって急に登山を始めた人とでは大変な違いがある。まず自分の体力の限界が判らない。そのため無理をして事故を起こす。一部の旅行会社による無理な登山ツアーも問題である。事前に参加者の健康診断もしないで登山経験の少ないツアーガイドをつけて登山し事故を起こした例もある。昔の登山では考えられない事故である。

白山がすっかりなじみ易い山となった現在，受け入れ側でも種々の面で注意をし，制度や設備を整備しなければならない。

自家用車（マイカー）を減らすこと，事故につながり易い日帰り登山を減らすこと，旅行会社への注意の喚起，ペット連れ登山やマウンティンバイク，トライアルモーターバイクの乗り込み禁止などが考えられる。自然との対話を学び，自然を利用した実体験ができる環境を増やすなど登山の原点へ帰っての見直しが必要であろう。

## 文　献

石川県白山自然保護センター（1997）白山国立公園利用調査報告書　35pp.

鳥畠昭信（1998）白山登山者へのアンケート．はくさん第25巻，第４号，10－11.石川県白山自然保護センター.